

# 不屈

2022年11月

No.332号

治安維持法国賠償  
同盟島根県本部

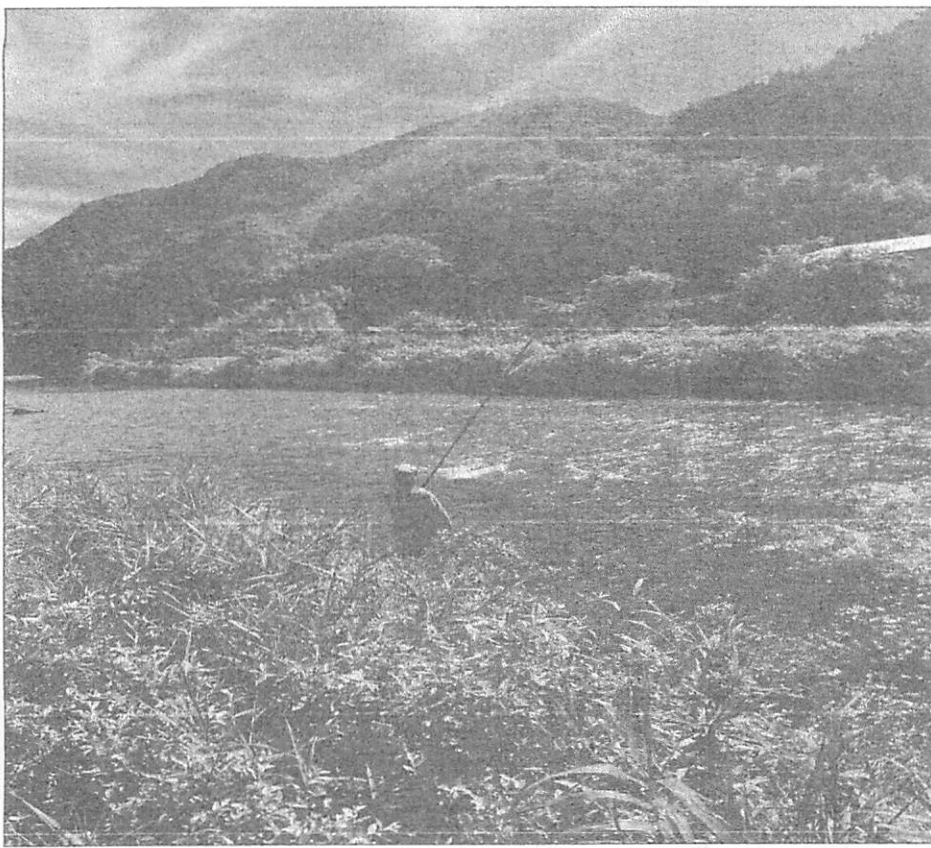
〒693-0033

出雲市知井宮町  
750-2

小玉信恵

☎・Fax

0853-23-3829



## 映画「わが青春つぎるとも」 で画期的成功

大田市

・大田市の本上映が大成功。10月23日の本上映は190名もの参加でした。そして感想文の提出が75人にも達しました。以下、感想文の中から四名ほどですが紹介していきます。また、共産党に対する見方が変わった。拷問に会いながらも戦後共産党を再建された人たちがいることを知つてすごい党だなあと思つた。共産党が党名を変えない理由がよくわかった。そして今後も平和に繋がる映画の上映をしてほしい。などの感想も役員に寄せられていたとのことですよ。

次ページに続く

国連難民高等弁務官事務所へ寄付します

令和4年**11月23日**(勤労感謝の日) 入場料 前売り **1,500**円 当日 **1,700**円

会場 **朱鷺会館 大ホール** (出雲市西新町)

①**10:30**～ ②**14:00**～

推薦団体：出雲市・出雲市教育委員会  
社会福祉法人出雲市社会福祉協議会・山陰中央新報社  
島根日日新聞社・出雲ケーブルビジョン

【天田の感想文から】

Aさんさん。千代子さんの24年の一生(短  
いけど)自分の志を持ち、今があるのも千代子  
さんほかの同志の力である事を確信しました。  
今こんなになつたつしたちが幸福でいられる事  
を感謝し、これからも頑張つていくつもりです。  
また、共産党に対する見方が変わった。拷問  
に会いたがらも戦後共産党を再建された人たちが  
いることを知つてすごい党だなあと思つた。  
共産党が党名を変えない理由がよくわかつた。  
そして今後も平和に繋がる映画の上映をして  
ほしい。などの感想も役員に寄せ  
Bさん。とても素晴らしい映画でした。あ  
の時代の特高は本当にひどかつたのですね。  
でもそれにどんな仕打ちを受けても決して屈し  
ない人間として尊敬します。でも、もう少し  
生きて自分の思う人生を大衆のために頑張つて  
☆勝手です。その後の笑顔も見たかつたです。

Cさん。映画が素晴らしかつた。今を生きる  
私たちの土台を作つてくれた千代子さん、忘れ  
ません。志をついでこれからみんなと明日に  
向かつて歩きます。

W君(10才)。昔の拷問はこのよつなつら  
い拷問を受けていたことをしりました。僕は  
また小六なのでこのよつなつたことを知つて良かつ

たです。僕はまだ幼いです。伊藤千代子さんの  
ように正義感強い人になりたいです。今日はあ  
りがとつございました。

「俳句・短歌」

小玉伸恵

一式飾り 流鏑馬(やぶさめ) 神事や 特選に

銀杏を 我が家分とし 二、三千

銃口を 突きつけられて 投票が  
(ウクライナ四州)

津和野町 三年ぶりの 鷺舞や  
羽はたく姿 優雅や眩(まぶし)

.....

# 「わが青春付くまのとも」

## 県内の取組のよすが。

(1) 1月1日時点

・益田市。・10月9日に6団体で正式に実行委員会を立ち上げ、試写会は10月23日に「人權センター」で行われた。本上映は来年に向けてしっかりと実行委員会を立ち上げて本上映を目指したいと思います。実行委員長・安達市議(談)

・松江市。・試写会を10月22日に27名で開催できた。本上映は年明けの2月1日に松江市民活動センター(ステイックビル)で、会場は確保されている。2500名を目標としている。

・安来市。・10月23日に試写会を12名で行った。年があけてから本上映の体制や日程を決めていく方向。

・出雲市。・今、出雲の同盟支部が主体となって、映画「ひまわり」の上映を11月23日に朱鷺(とき)会館で、2000名規模で成功させることが大きな取り組みとなっている。その成功を、そのまます時を移さず「わが青春付くまのとも」の上映につなげていく予定。

・浜田市。・映画の上映運動は自分も好きな活動なので是非浜田でも上映したい(西村・談)。年明けに試写会の予定。

・雲南市。・10月21日に6名で試写会をもった。年があけてから本上映に向けての計画を相談する方向。

・奥出雲町。・10月後半の試写会を難しいが年明けには是非試写会をお願いしたい。

・江津市。・年明けに試写会を計画し、本上映を目指していく。

・その他、隠岐の島町での上映も視野に入れつつあります

### 「短歌」

◎ 加藤朝氏

息子の 多くは 豊を守り得ぬ

老いの悲しみを 秘むる 田植獅子

白血球の 講壇をよきこと よみがさる

臆じまぬれし 伯母の死に顔

歯車上の 鼻の血を滴(したたら)し

終には目玉の 血を流しぬ

# 今年のノーベル平和賞のこと

梶岡 暲 佐々木 忠直

## 木忠直

今年のノーベル平和賞が先月、三つの人権団体におくられました。同じ人権団体の我々としても喜ばしい出来事でした。それぞれの受賞理由の「市民の基本的人権の擁護と権力への批判権利の促進」、「平和と民主主義のために市民社会の重要性を示す」にも納得しました。

① ベラルーシのベリヤツキー氏は、独裁政治による弾圧・迫害にたいし、人権団体「春」を創立し政権の人権侵害を調査・告発してきました。大統領・ルカシェンコの選挙不正では大規模な反政府デモを提唱。現在は当局に拘束され収監中です。ノーベル平和賞選考委員会は刑務所からの解放の要求もあわせて表明しています。

② ロシアの人権団体「メモリアル（記憶）」は、旧ソビエト時代からの政治弾圧の記録・告発をはじめ、現在の中央アジアでの人権侵害の監視なども行っています。プーチン政権は「外国の代理人」と迫害を強めています。

③ ウクライナの「市民自由センター」は、ロシアの侵攻直後の首都キーウ近郊での民間人殺害の証言を記録・立証した市民レベルの自発的活動が評価されました。

これら三者は、いずれも強権に立ち向かう個人・団体に光を当てた評価で、戦前の日本における私たちの先達が逮捕、投獄のなかでも主張をつらぬいた考えが日本国憲法に盛り込まれたように、私たち同盟の活動の正当性をも励ますものと考えます。

